倫理　４

Drancy The **Drancy internment camp** was an assembly and detention camp for confining [Jews](https://en.wikipedia.org/wiki/Jews) who were later deported to the [extermination camps](https://en.wikipedia.org/wiki/Extermination_camps) during the [German military administration of Occupied France during World War II](https://en.wikipedia.org/wiki/German_military_administration_in_occupied_France_during_World_War_II)

Dionysus the god of dark and light and indulgence. Lutetia = Paris

パリ第８大学 – May 1968 revolts, Jacques Lacan and his daughter, Foucault, etc. Located in Saint Denis.

Saint Denis

* 移民やマイノリティが多い（black and Hispanic）
* 街の破壊、再建を通した同化政策の試み
* カウンターカルチャー、サブカルチャーの中心。
* 移民などをここに集める政策がとられた≒ナチスの当初のユダヤ人凝集政策。But ultimately failed.

Jus soli – 出生地主義　（フランス、人口増大を図る）

　→ 子供を持っている人を強制送還できない（未来のフランス人を育てる重要な存在）。Sans papiers.

対策として移民への協力を罰することの厳罰化。日本を見習え、入国収容所を通した鉄壁の防衛戦。

Jus sanguinis – 血統主義　（日本、父系の血、父不明の無国籍問題）

Republique:

Res publica → 公共性を中心的な議題として設定している。

Prive = プライベート

古代ギリシアでは、自らの家のprive から出て行き、 persona をかぶり、アゴラに出てpolitique を論ずる＝res public の姿。

Michael Walzer:

* Just war and Unjust war
* What makes one war just and the others unjust?
* Historically people have been justifying and contemplating war.

正義　ディカイオシネー　Justitia, vertu (徳)

徳　(四大徳、枢要＜カーディナル＞

1. 思慮　フロネーシス (prudentia, sapientia The highest of virutes)
2. 勇気　アンドレイア fortis
3. 節制　ソープロシュネー　temperantia
4. 正義　ディカイオシュネー　Justitia

キリスト教的な徳

1. 信仰
2. 希望
3. 愛　アガペー　対神的

対人的な愛を隣人愛とした→旧約と新約の間で隣人の定義の変化。

ノアの七つの掟：

1. No idols
2. サンへドリン（法廷）の絶対的権威を認める
3. No adultery
4. No evil thoughts
5. No murder
6. No theft
7. 生きた動物から取ったものを食べてはならない。  
   → これを守るものがノアの子孫、Noachide   
   **重要性:** 血統主義の超越。ゲール（異邦人）が七つの掟を守ったらゲールツェデク（義の人）として隣人として認められる。非ユダヤ人の義人。司祭と同じように遇されなくてはならない。

キリスト教の正義：

向かってくる、動きのある、生きた隣人への愛に基づいた正義。躍動的で生きた霊の本質と冷たい普遍的な律法の間の衝突、矛盾。

→ カント　道徳感情論。モラルセンチメントは恣意的すぎる。倫理、道徳というような絶対性にはそぐわない。倫理、道徳は**法**でなくてはならない。

グロティウス、ジョンセルデンはノアの掟から大きく影響を受けた。

隣人　＝　遥かなものという含意がある。Neighbor など、 near を示唆する訳は適切ではない。

ストイシズム

* 自己と他者の境界を存在すると前提した上で、他者への不干渉を提唱する。自己を最優先し、錬磨する。
* 集団からの離脱→地理的な拘束からの解放＝コスモポリタニズム（世界市民主義）。孤立化の過程において新たな広大なつながりを獲得する。
* 判断（決めつけ）の停止を呼びかける。自らの感情に飲まれ、それを判断として他人の性質とする（**投射理論**）。  
  → 以上のような情念とそこから来る判断をやめなくてはならない＝**アパテイア**。
* モンテーニュ　「書物は私を映し出す鏡である」　  
  善悪や美醜の二元論を排して、全ては混成的にある。この混成的な総体に調和はない。不調和でぎくしゃくしている。人というものがそうなのである。  
  **自己組織化**：オートポイエーシス。自己を形作っていくことで新たな調和が生まれる。  
  文明と野蛮→ 食人の話。敬意を表して死んだものを食うより、生きたものを虐げ攻める、宗教という分裂により無残に拷問し殺すことよりよっぽど文明的だ。エセー　食人種について。
* デカルト、スピノザもストア派。**↔︎** パスカルとcharite
* デカルトの高邁（generosite）Gene = 生まれる。  
  デカルトの**情念論**